

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第2部門第2区分

【発行日】平成19年4月12日(2007.4.12)

【公開番号】特開2005-262250(P2005-262250A)

【公開日】平成17年9月29日(2005.9.29)

【年通号数】公開・登録公報2005-038

【出願番号】特願2004-76261(P2004-76261)

【国際特許分類】

B 2 3 K 9/09 (2006.01)

B 2 3 K 9/173 (2006.01)

B 2 3 K 9/23 (2006.01)

B 2 3 K 103/14 (2006.01)

【F I】

B 2 3 K 9/09

B 2 3 K 9/173 C

B 2 3 K 9/23 C

B 2 3 K 103:14

【手続補正書】

【提出日】平成19年2月22日(2007.2.22)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

溶接電流にピーク電流期間とベース電流期間を交互に配するパルスミグ溶接方法において、ピーク電流期間からベース電流期間に移行する間に少なくとも1つのピーク電流とベース電流の中間値を持つ中間電流期間を設け、それぞれの電流期間が設定電流値の±20%の電流値である期間が少なくとも0.1msec.以上あり、少なくとも1つの中間電流値が、 $I_d = \text{ピーク電流値} - \text{ベース電流値}$ としたときに0.3I_d以上0.5I_d以下の条件を満たすパルスミグ溶接方法。

【請求項2】

溶接電流にピーク電流期間とベース電流期間を交互に配するパルスミグ溶接方法において、ピーク電流期間からベース電流期間に移行する間にピーク電流とベース電流の中間電流値を複数持つ中間電流期間を設けて溶接を行うパルスミグ溶接方法。

【請求項3】

複数の中間電流値の少なくとも1つは、 $I_d = \text{ピーク電流値} - \text{ベース電流値}$ としたときに0.3I_d以上0.5I_d以下の条件を満たす請求項2記載のパルスミグ溶接方法。

【請求項4】

Ti又はTi合金を溶接する請求項1から3のいずれか1項に記載のパルスミグ溶接方法。